

序 調査の目的と範囲

1 調査の目的

本業務は、空港臨海部における土地利用と交通ネットワークに焦点をあて、空港臨海部のあるべき将来像と実現方策を描き、官民関係者がそこで果たすべき役割を整理することを目的とする。

2 調査の範囲

- [検討項目] 空港臨海部の課題、将来像並びに実現方策の策定
- [重点テーマ]
 - ・人口及び産業に着目した土地利用のあり方
 - ・道路網や公共交通など円滑な交通ネットワークのあり方
- [地理的範囲]

図 地理的範囲（対象地域）

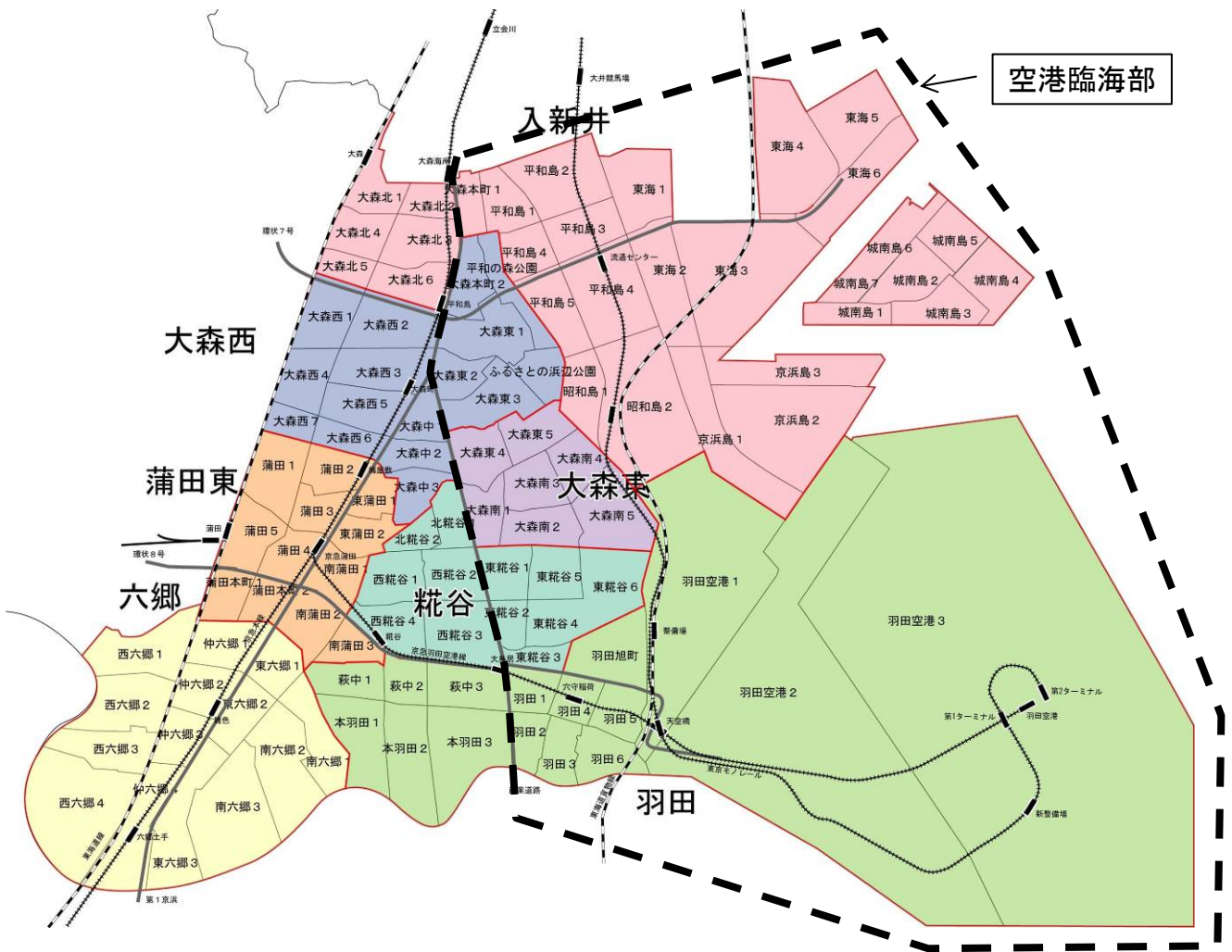


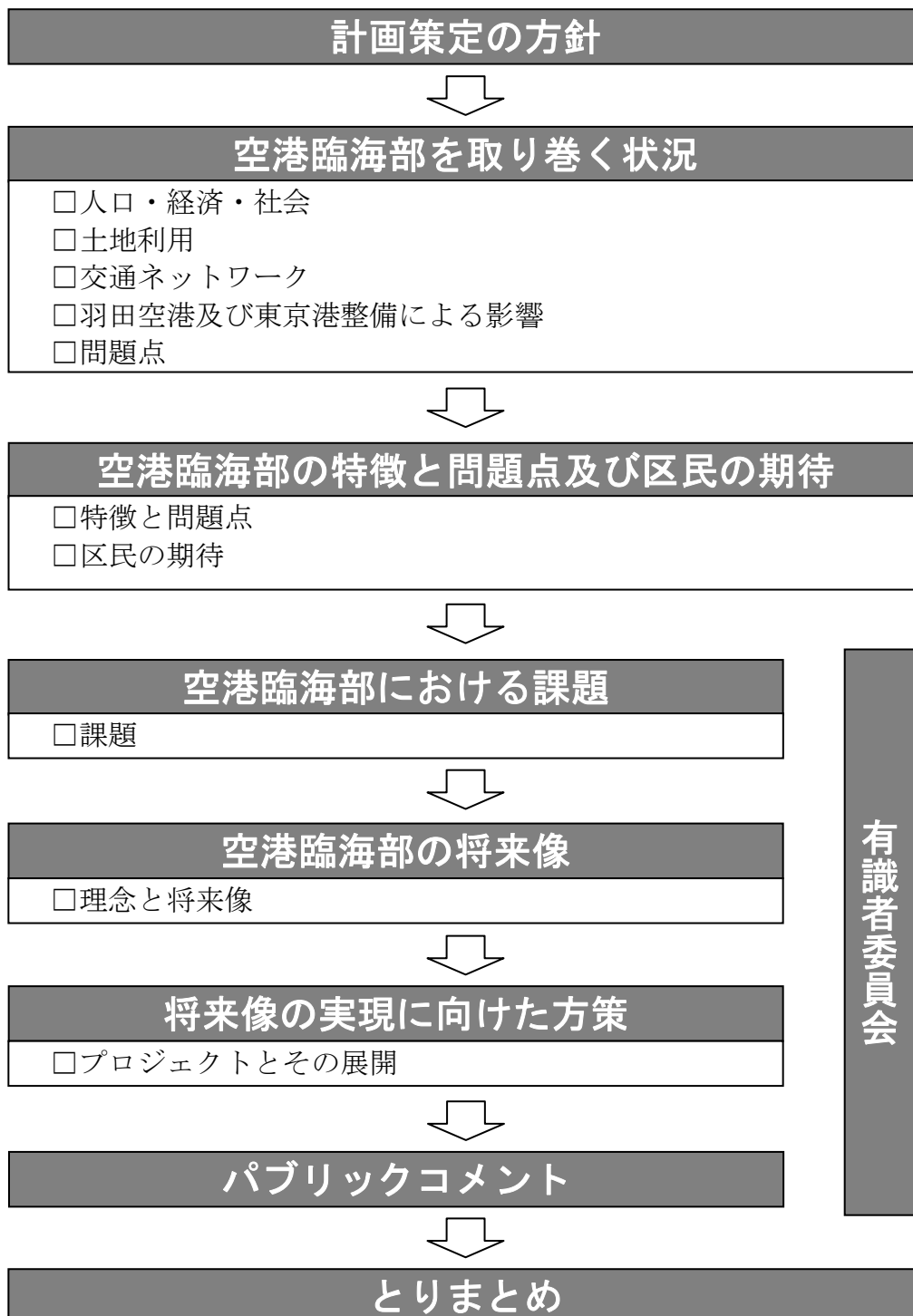
表 区港臨海部の区分と帰属町

空港臨海部の区分	帰属する町
内陸部	大森本町、大森東、大森南、東糎谷、羽田旭町、羽田
臨海部（埋立島部）	平和島、東海、昭和島、京浜島、城南島
羽田空港	羽田空港

3 調査の全体フロー

本調査の全体フローは下記の通りである。

図 調査の全体フロー



4 空港臨海部略史

空港臨海部は、内陸部と臨海部と羽田空港が相互に関連して形成される中で、国家的事業の進展、これに伴う住民と事業者の環境激変の歴史を持つ。2010年10月の羽田空港再拡張によって、世界交流の進展と新たな環境激変を迎えようとしている。

表 空港臨海部略史

	内陸部	臨海部	羽田空港
大正～ 昭和初期	<ul style="list-style-type: none"> ・農漁村 ・耕地整理 ・用水路、堀 	<ul style="list-style-type: none"> ・海水浴場 ・のり養殖場 	<ul style="list-style-type: none"> ・六郷川河口の砂浜（三本葎飛行場）で飛行家達が発着試み ・大正5年 日本飛行学校創立
関東大震災 以後	<ul style="list-style-type: none"> ・田園から市街地へ ・工場、住宅の立地 		<ul style="list-style-type: none"> ・昭和6年 面積53haに延長300mの滑走路1本で開港（東京羽田飛行場） ・昭和15年 拡張工事（東京飛行場へ改名）
戦災	<ul style="list-style-type: none"> ・焦土 		
戦後	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和22年 大田区誕生 ・工場街としての活気 		<ul style="list-style-type: none"> ・接收（ハネダエアベース） ・約3千人が強制退去 ・昭和33年 全面返還
昭和40年 代～	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和41年 区の人口75.7万人でピーク ・公害問題の激化 ・工場の臨海部への移転 ・大規模工場の区外移転 ・住宅地化の進展 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和42年 平和島、昭和島竣工 －平和島に流通業務団地 －昭和島に鉄鋼団地 ・昭和47年 東海竣工 ・昭和49年 京浜島竣工 －金属加工協同組合 ・昭和53年 城南島竣工 －機械加工等協同組合 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和39年 3本の滑走路完成 ・昭和53年 成田へ国際線が移転 ・昭和56年 羽田空港拡張（沖合展開）が閣議決定
昭和60年 代～	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和60年 全国初の工場アパート（大森南2丁目） 	<ul style="list-style-type: none"> ・工場の廃業、転業、移転の拡大 ・物流等の立地 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和63年 新A滑走路完成
平成元年～	<ul style="list-style-type: none"> ・平成8年 大田区産業プラザ 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成元年 東海に大田市場 ・平成12年 東海にプロロジスパーク ・平成15年 平和島にBIG FUN 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成9年 新C滑走路完成 ・平成12年 新B滑走路完成
平成22年			<ul style="list-style-type: none"> ・再拡張供用予定